テクノエイド協会では、
福祉用具の安全な利用を推進するため
数多くのヒヤリハット事例を
ホームページで公開しています

福祉用具ヒヤリハット情報

ヒヤリハット事例検索

前のページ　一覧へ戻る　次のページ

◆福祉用具ヒヤリハット情報の取り扱い

Case175：知り合いの方を見ながら手を振ってしまい、崖に転落しそうになる

種　目　車いす

用具の種類　ハンドル形電動車いす

場面の説明

下り坂のカーブで知人と出会い、挨拶したためよそ見運転となり、誤って崖に転落しそうになった

解説

まず、このような状況の場所は極力通らないことが賢明ではないでしょうか。どうしても通らねばならない時にはそれなりの緊張感が必要です。ハンドル形電動車いすは操作が簡単だからと言って安全な乗り物ではありません。事例のようなわき見運転が危険なのは、ほかの車両と同じことです。

参考要因

人：よそ見運転をしてしまった
人：転落の危険がある崖沿いを走行していた
人：危険が伴う道を走行しているという緊張感に欠けていた
環境：転落の危険があるにもかかわらずガードレールが設置されていなかった

テクノエイド・ヒヤリハット　検索

www.techno-aids.or.jp

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

〒162-0823
東京都新宿区神楽河岸 1-1 セントラルプラザ 4 階
TEL：03-3266-6884　FAX：03-3266-6885

本事業は厚生労働省老健局から委託されて実施したものです。

無断転載を禁ず

# 福祉用具を安全に利用するためのハンドブック

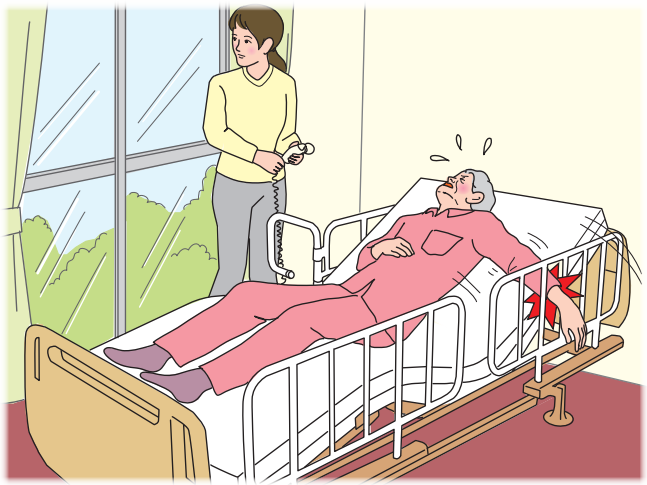
～「福祉用具ヒヤリハット情報」から学ぼう～

公益財団法人テクノエイド協会
The Association for Technical Aids(ATA)

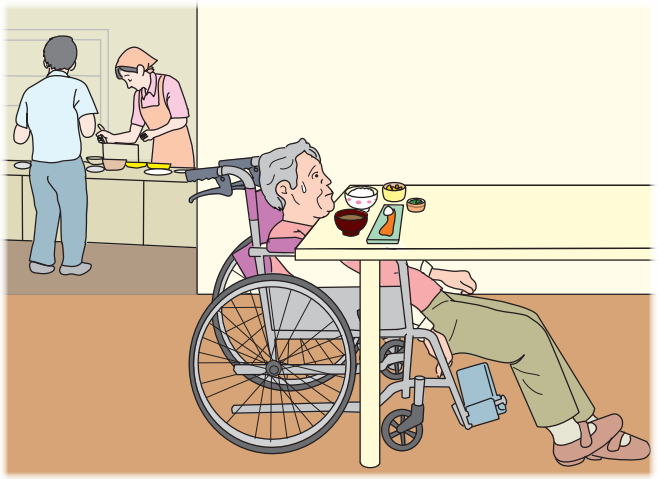
# 前向きな気持ちと福祉用具の利用が、希望のある人生を実現してくれます！

歳を重ねたり病気や障害を負うことで、
生活機能が低下し日常生活が不自由になります。
低下した機能を補い、残っている機能を
より引き出してくれるのが福祉用具です。

# みなさんの周りで、こんなことはありませんか？

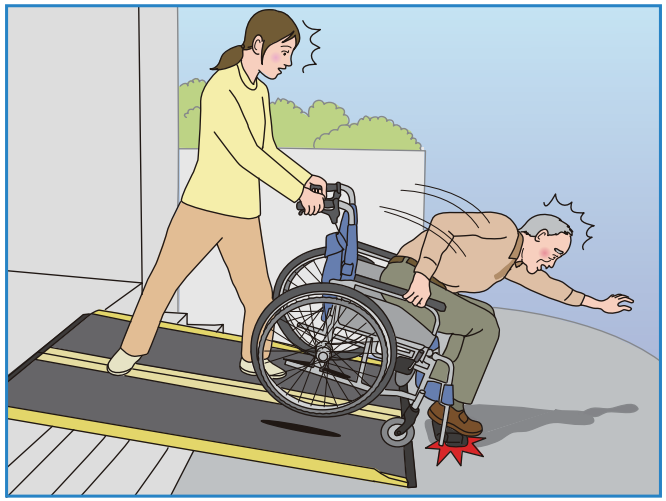


ベッドの背上げをしていた際に、
腕をベッドの柵（サイドレール）に挟み、ケガをしそうになる



車いす上でずっこけ姿勢になり、すべり落ちそうになる

# あなたなら、どんな要因と対策を考えますか？



前向きで下りたところ、
フットサポートが地面にひっかかり転落しそうになる

×

いつも大丈夫だったから、今日も大丈夫だと・・・
これからは気を引き締めて注意します・・・

○

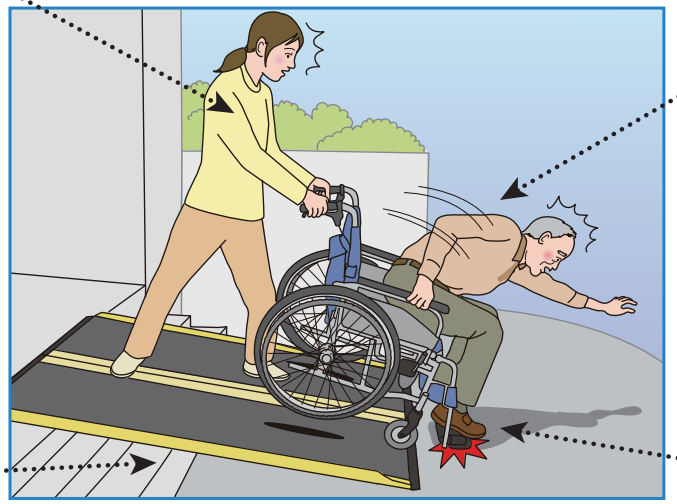
「注意する」のは当然だけど、それだけでは・・・
人の努力や精神論だけに偏った対策だけでは事故は防げないよね・・・

一緒に考えてみましょう

**事故は様々な要因が相互に作用しあって起こります。**
**複数の視点で、要因と対策を考えていくことが大切です。**

**介助者の要因（例）**

「これくらいなら（前向きで下りても）大丈夫」と過信していた



**本人の要因（例）**

筋力が弱く座位が不安定で、座り方も浅かった

**環境の要因（例）**

段差の下が狭く、十分な長さのスロープを選定できなかった

**福祉用具の要因（例）**

フットプレートの高さ調整が不適切だった

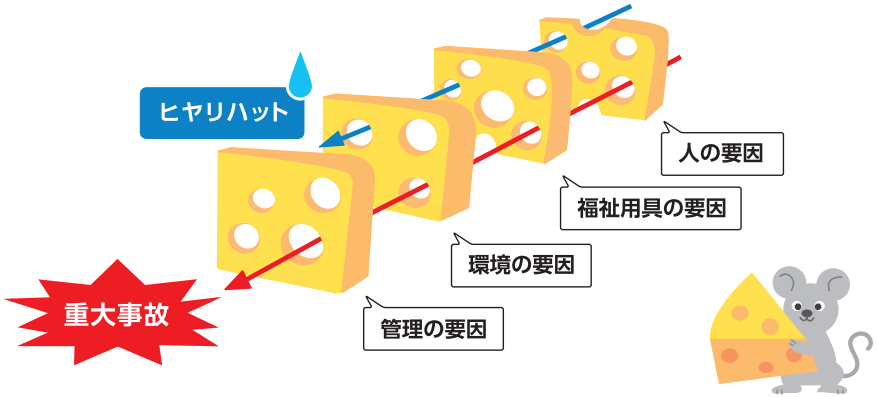
**管理の要因（例）**

現場でどのような介助が行われているのか、管理者が把握していなかった

# 事故を予防する取り組みを見てみましょう。

施設の管理者

うちの施設では、事故やヒヤリハットの要因を、様々な観点から複合的にとらえる取り組みをしています。



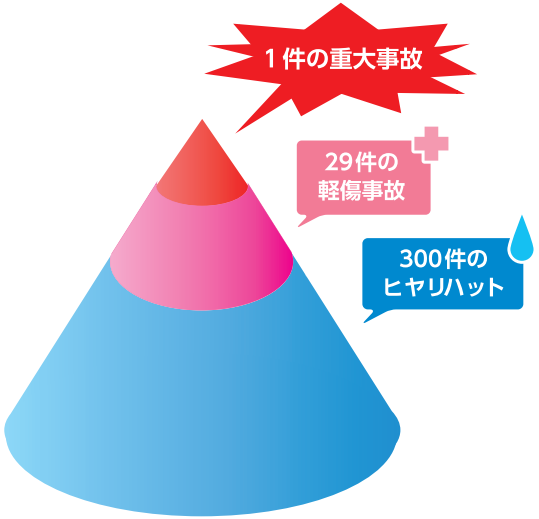

## スイスチーズモデル

スイスチーズは穴の開いたチーズ。穴の一つひとつが事故につながりかねない要因を表しています。事故は要因（穴）が重なり通り抜けてしまう状態です。いくつかの穴を通り抜けはしたものの事故にまでは至らなかったのがヒヤリハットです。全ての要因（穴）を閉じていく努力が大切になります。仮に事故に至らなかったとしても、放置すると別の事故要因につながってしまいます。

**事故要因は複合的にとらえ、全てに対策を立てていきましょう。**

施設の介護士

私の職場では事故を減らすために、まずはヒヤリハットを減らすことに取り組んでいます




## ハインリッヒの法則

米国の保険会社に所属していたハインリッヒ氏が発表した、事故とヒヤリハットの統計的な関係を示した法則。
この法則では、１件の重大事故の陰には３００件のヒヤリハットの事案が隠れていることを明らかにしました。ヒヤリハットを軽視することが重大事故につながることを意味し、ヒヤリハットを減らす取り組みの重要性を示しています。

**ヒヤリハットの数を減らすことが、確率的に重大事故を防ぐことにつながります。**

# 「『事故』と『ヒヤリハット』は つながっている」という意識が大切です。

事業所スタッフ

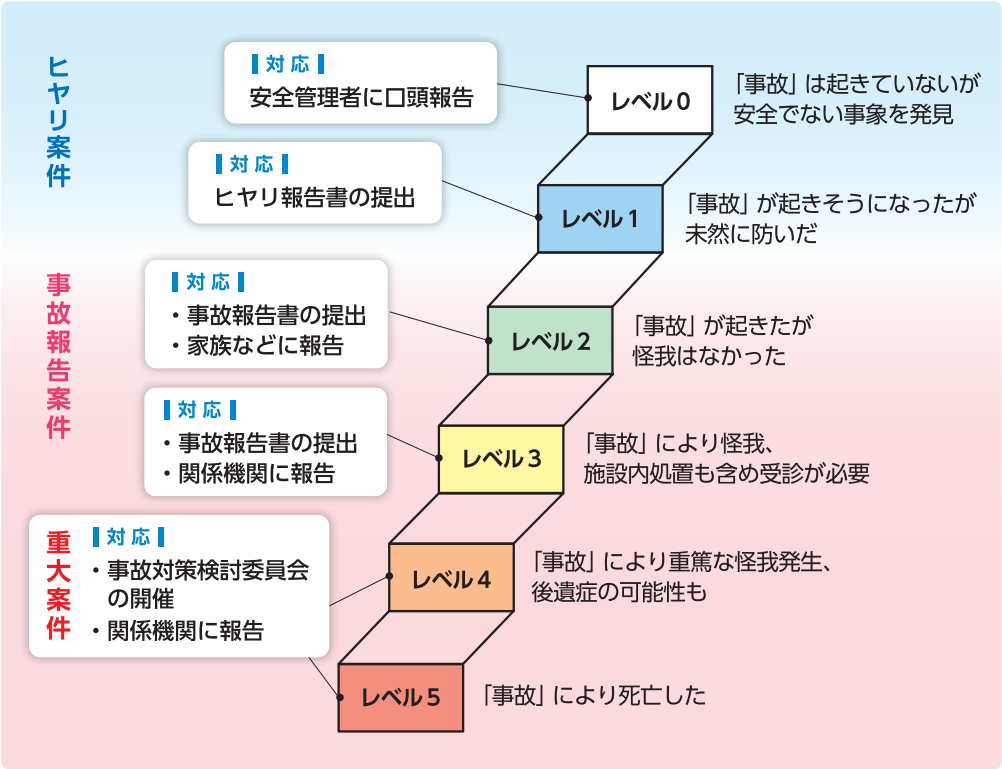
うちの事業所では、できるだけ小さなうちに対応を心がけています。

## スノーボールモデル

「トラブル」は、雪山を転げ落ちる雪玉（スノーボール）のように拡大しつづけます。できるだけ問題が小さなうちに対応しましょう。もし大問題になっても、更に大きくなる前に、隠ぺいや取り繕いや先送りをすることなく、気づいた時に対策を立てましょう。

**できるだけ小さなうちに対応を。仮に大問題になっても、その時点で対応しましょう。**

## トラブルのレベルに応じた対応例




「ヒヤリハットの延長線上に事故はある」という視点を意識した取り組み例です。「レベル0」では、「車いすのブレーキの効きが悪くなっている」「○○さんの家の玄関マットが滑りやすい」といった、これからヒヤリハットになりそうな事象の情報です。「ヒヤリハット」と「事故」の明確な線引きはなく、このような階層ごとの考え方を参考例に対応を決めておいてはいかがでしょうか。

# 「福祉用具ヒヤリハット情報」を例題に、事例検討をしてみましょう！

【事例１】
歩行器がベッドや床に落ちた布団に引っかかり転倒しそうになる

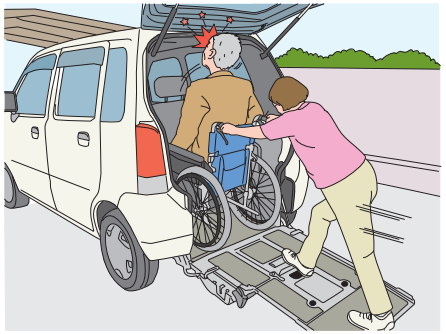
要因と対策の参考例！

【事例２】
落ちた手元スイッチを拾おうとして、ベッドの柵（サイドレール）から腕が抜けなくなっり転倒しそうになる

要因と対策の参考例！

【事例３】
エレベーターのドアレールの隙間にキャスターがはまり込み転倒しそうになる

要因と対策の参考例！



【事例４】
福祉車両に乗り込もうと後方のスロープを上がっていた時に本人の頭をぶつけそうになる

要因と対策の参考例！

POINT！

たくさんのイラストの中から経験のある場面等を選び、実際に「人（本人・介助者）」「環境」「福祉用具」などの要因を考え、それらに対する対策を話し合うことで、安全への意識を高め、ヒヤリハットや事故を分析する視点を養うことができます。